

ワークショップ「農学・生命科学のための次世代放射光利用」を共催

2019年9月27日に、ワークショップ「農学・生命科学のための次世代放射光利用」が開催されました。本ワークショップは東北大学青葉山新キャンパス内に建設中の次世代放射光施設の完成に先立ち、農学・生命科学分野における放射光利用の例や関連技術について情報を共有することを目的として、東北大学大学院農学研究科次世代放射光施設利用ワーキンググループが白川仁教授・金山喜則教授・原田昌彦准教授を世話人として主催し、本センターが共催したものです。

カナダ サスカチュワン大学の Derek Peak 教授がカナダの放射光施設「Canadian Light Source」を活用した土壌分析研究の実例を紹介したほか、東北大学からは多元物質科学研究所の江島丈雄教授、矢代航准教授がそれぞれ軟 X 線を利用した軽元素の状態・局在の解析と硬 X 線を利用した空間・時間分解能の高い構造観察について、農学研究科の日高将文助教、牧野知之教授がそれぞれ X 線 CT の食品での利用例と X 線を利用した土壌中の有害元素の状態分析について紹介しました。また、生命科学研究所の田中良和教授が X 線結晶構造解析、小角 X 線散乱と CryoEM を組み合わせたタンパク質構造解析について、CYRIC センター長の渡部浩司教授がポジトロンを利用した植物の個体スケールでの元素動態の観察について紹介しました。放射光を利用した技術により元素から生体組織まで様々なスケールの観察が可能であり、農学・生命科学研究所に非常に有用であることが具体的な実例と共に参加者に共有された有意義なワークショップでした。

ワークショップ後の懇親会は農学研究科の阿部敬悦研究科長の乾杯の挨拶で始まり、新しい研究アイデアや進行中のプロジェクト等について活発な情報交換が行われました。



カナダ サスカチュワン大学の Derek Peak 教授による講演